

おわりに

本報告書は、『「主体的・協働的な学び」を实践できる教員の養成 ―アクティブ・ラーニングを導入した新たな学習指導方法の開発―』プロジェクト4年目の活動報告内容をまとめたものである。各4本柱の主な成果をまとめると、次のようになる。

①アクティブ・ラーニング授業が実践できる教員養成プログラムの開発

本学教員のAL授業実施率（AL授業を導入した授業コマ数／担当授業コマ数）は、学部授業で71.2%、大学院授業で78.5%であった。本学授業の約7割でAL授業が実施された。本学学生が“能動的学び”ができているかを授業アンケートで調査した。その結果、「授業で提示された問題・参考文献・資料などを自ら検索・参照した上で、自分で問題点を深く考えた。さらに、その考えに基づき行動した。」に対して約67%、「授業を受けた上で、自ら関連項目について文献やインターネットなどで調査し、新たな思考を展開した。さらにその思考に基づき行動した。」に対して約63%の学生が回答した。

②アクティブ・ラーニング授業が実践できる現職教員研修プログラムの開発

教員免許更新講習において、AL活動を取り入れた講習を開催した。また、現職教員も参加可能なALに関するFD講演会・FD集会を開催した。

③アクティブ・ラーニング授業が実践できる大学教員の養成プログラムの開発

FD講演会・FD集会を3回開催した。最低1回でも参加した本学教員数は69名（全教員に対して33%）にとどまった。

④アクティブ・ラーニング授業の指導方法・教材の開発、推進・拡充

AL授業を支援するためのICT機器貸出しシステムは順調に運用されている。本学教員がこのシステムを利用した件数は44件であった。また、学生や教員がiPadやまなボードなどを利用して講義や模擬授業ができる「ALルーム」を創設した。前後期合わせて、教員5名、学生28名が来場した。さらに、ALルームを利用して「小学校プログラミングに向けた簡易講習会」を後期に11回開催し、学生44名が来場した。

本プロジェクトの活動は、多くの方々の協力に支えられています。学外・学内の多くの先生方にFD講演会・FD集会で講演や発表をしていただきました。今後もプロジェクト推進に多くの方々のご協力が必要となりますので、よろしくお願い致します。

プロジェクトメンバー代表
伊東 正人